

# 令和5年度学校運営評価まとめ

## 1 目的

教育目標の達成状況、教育水準の維持・向上にむけた教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善・発展を図る。

## 2 実施日

令和5年12月1日（木）～12月22日（金）

## 3 方法

(1) 対象者：職員21名（学院長を除く）

(2) 実施方法

学校運営評価表を用いて無記名自記式により実施した。評価表は、【I 教育理念・教育目的】、【II 教育目標】、【III 教育課程経営】、【IV 教授・学習・評価過程】、【V 経営・管理過程】、【VI 入学】、【VII 卒業・就業・進学】、【VIII 地域社会／国際交流】及び【IX 研究】の9つのカテゴリで、38の下位項目、117の評価内容で構成されている。評価尺度は、「Aよく当てはまる」、「B当てはまる」、「Cあまり当てはまらない」「D当てはまらない」の4段階とした。また、「C」「D」を回答した場合は、改善方法への意見を自由記述とした。

評価表の配布及び回収方法は、学院の共有フォルダ内の指定した場所にある評価表に各自が入力し、保存したことによって回収とした。

(3) 集計及び分析方法

① 各評価内容について、評価尺度の回答数及び割合の単純集計を行った。

② 評価尺度は点数化し、「Aよく当てはまる」を4点、「B当てはまる」を3点、「Cあまり当てはまらない」を2点、「D当てはまらない」を1点の4段階とし、4点満点で評価内容及び下位項目、カテゴリの平均点を算出した。平均点3.0以上が肯定的評価、3.0未満が否定的評価と分析した。

## 4 結果

学校運営評価表の配布数は21名、回収数21名（回収率100%）で、有効回答数は21名（有効回答率100%）であった。

1) 全体的評価『図1、図2』 ※（ ）内は昨年の値である。

カテゴリ別平均点は2.52～3.52（2.65～3.60）であり、9つのカテゴリのうち、8つのカテゴリが3.0以上と肯定的評価であった。最も平均点が高かったのは、【II 教育目標】の3.52（3.56）、で昨年度とほぼ同様の平均点となっている。次いで【I 教育理念・教育目的】3.50（3.60）、【IV 教授・学習・評価過程】3.45（3.50）となっており、順位の変動が見られた。最も低かったのは、【IX 研究】2.52（2.65）、次いで【VIII 地域社会/国際交流】が3.10（3.22）で、こちらは前年度の同様の結果であった。前年度との比較では全体的に低下している。

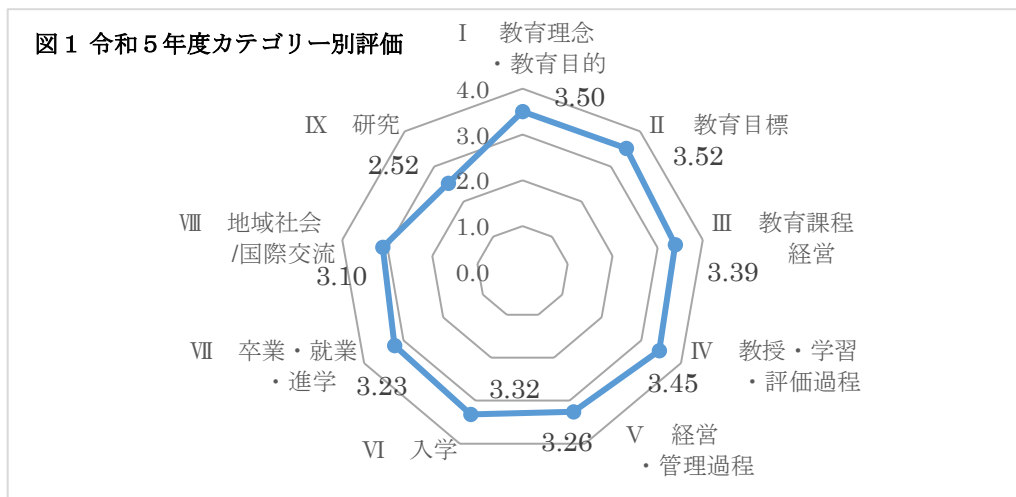
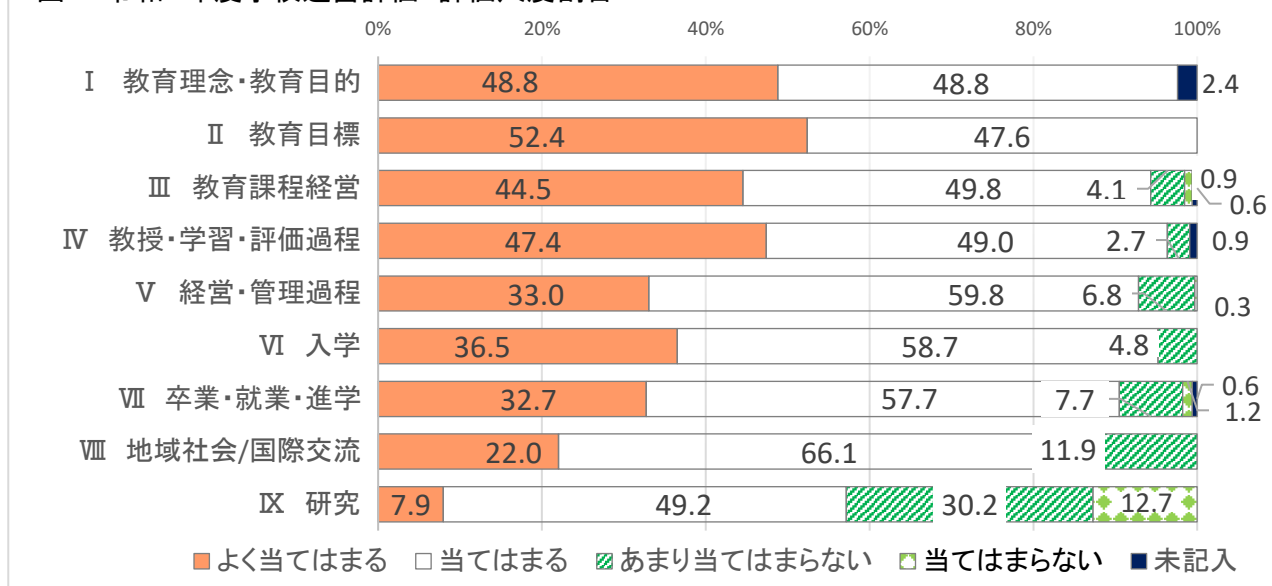


表1 カテゴリー別評価の推移

カテゴリー	令和元年度平均点	令和2年度平均点	令和3年度平均点	令和4年度平均点	令和5年度平均点
I 教育理念・教育目的	3.65	3.61	3.45	3.60	3.50
II 教育目標	3.58	3.62	3.45	3.56	3.52
III 教育課程経営	3.39	3.44	3.34	3.47	3.39
IV 教授・学習・評価過程	3.47	3.53	3.40	3.50	3.45
V 経営・管理過程	3.24	3.31	3.26	3.35	3.26
VI 入学	3.60	3.61	3.40	3.52	3.32
VII 卒業・就業・進学	3.20	3.13	3.16	3.34	3.23
VIII 地域社会/国際交流	2.99	3.02	3.07	3.22	3.10
IX 研究	2.59	2.47	2.63	2.65	2.52

カテゴリー別評価尺度割合「図3」をみると、「Cあまり当てはまらない」・「D当てはまらない」と回答した人が最も多かったカテゴリーは、【IX 研究】で32.9% (27.0%)で前年度と同じ結果で、割合は増えている。次いで、【VIII 地域社会/国際交流】が11.9% (6.6%)で【VII 卒業・就業・進学】が8.9%となった。

図3 令和5年度学校運営評価 評価尺度割合



## 5 まとめ

令和5年度学校運営評価は、前年度と比較し、すべてのカテゴリで評価が低下している。新カリキュラムの運用が始まったことで、内容の整合性や評価基準などを見直し、評価したことが一因ではないかと考える。各科においてマンパワーが不足し、教員の許容範囲を超えた対応も余儀なくされているなかでも、学生の学習の担保はもちろんのこと、様々な状況にも適切な対応を求められている。今後も、学生の多様性を考慮しながら、医療従事者を養成する施設として外せない倫理観や誠実性の醸成が図られるよう、学生に関わっていくとともに、ハード面では不足の多い学習環境を工夫しながら、職員全体が自己研鑽を継続していく必要がある。